

実践

大規模団地における年少者対象「にほんご教室」の取り組みについて

— URコミュニティと地域ボランティアの連携の可能性 —

村澤 慶昭（武蔵野大学）

実践の場の特徴：これは、UR都市機構の大規模団地のひとつ、江東区「大島六丁目団地」における実践の報告である。現在、当該団地の外国籍・外国ルーツと考えられる居住戸数は全体の約12%（およそ320世帯、650人程度）に上り、多様化も進んでいる（㈱URコミュニティ概算）。本実践は、団地の管理を担う㈱URコミュニティの支援企画室より当該団地内「にほんご教室」開設の相談を受けたことにより始められたが、大規模団地内のにほんご教室である点、場所の提供・運営が管理会社㈱URコミュニティより無償でなされている点、地域日本語ボランティアネットワークと連携している点に特徴がある。

実践の目標：1. 互いに居住ルールを守りよりよい生活者となることを、まずは年少者への日本語支援を通して行う。2. 地域日本語ボランティアネットワークのひとつの拠点にする。

具体的な実践の内容とその過程：2016年5月より各回1時間（原則第2、4木曜夕方）、年間3ステージ（計18回）の支援を行った（現在も継続中）。支援協力者は「江東にほんごの会」等所属のボランティアの方々であり、支援対象者は当該団地居住の年少者10名前後（ルーツは中国、インド）であった。具体的支援の内容は、集合住宅内でのルール等の他、あいさつ、ひらがな・カタカナの読み書き、日本の小学校に入学するための準備、季節の行事や絵本、紙芝居、カルタ、歌などを用いた初級レベルの日本語の指導である。

結果と考察（目標の達成度・課題）：この教室活動は口コミでも広まるなど一定の評価を得ている。また、団地自治会とも良好な関係構築ができ、会報誌でも掲載周知がなされている。一方、他の支援ニーズへの対応や、日本人居住者との交流推進などの課題も明らかになった。

そこで、本実践の共有により、先行する他の団地内での取り組みや、各地の日本語支援ネットワークとの情報・意見交換を通して、このような団地内支援の展開を考えたい。

(797字)

.....

【引用文献】

- ・UR賃貸住宅「大島六丁目 住まいリポート（東京都江東区）」
https://www.ur-net.go.jp/chintai/kanto/tokyo/20_1920_report.html
- ・村澤慶昭（2017、3）「江東区における年少者日本語教育支援の取り組み」武蔵野大学グローバルスタディーズ研究所紀要 Global Studies 創刊号 pp.67-76
- ・早川秀樹「神奈川県横浜市『多文化まちづくり工房』文化庁月報 平成25年9月号(No.540)
http://www.bunka.go.jp/pr/publish/bunkachou_geppou/2013_09/series_10/series_10.html